



「英語でウェブプレゼンテーションをするときに気をつけたい」ポイント

- ウェブ・カンファレンス：3つのVをさらに念入りに用いる。
- 双方向のプレゼンが鍵：便利なツールを利用する。

今回のシルバーマンコーチのレクチャー内容

①本編「英語でウェブプレゼンテーションをするときに気をつけたいポイント」

ウェブでプレゼンテーションを行う際に、覚えておいて頂きたいことがあります。周りに気を散らすものがたくさんあるということです。そして、あなたが非常に明確なWIFY (What's in it for you) を持っていない限り、聴講参加者 (以下、参加者) のテンションを保つことは本当に難しいです。ですから参加者に、これから何を提示していくかをはっきりと示してください。

また、「3つのV」が持つパワーを思い出してください。そして、3つのVを効果的に使いましょう。「Verbal (言葉)」、「Vocal (声)」、「Visual (見た目)」を使ってアイデアを提示するようにします。

ウェブプレゼンテーションでは、PC画面ではなく、ウェブカメラを見て参加者とアイコンタクトを取りましょう。そして、ヘッドセットを使いましょう。質の良いスピーカーとヘッドホンの使用をお勧めします。音声をはっきりと聞こえるし、参加者の声もよく聞こえるからです。

ウェブプレゼンテーションをスムーズに実行するために使用できるツールがいくつかあります。代表的なのが投票機能、チャット機能、そしてタイマー機能の3つです。ほとんどのウェブ会議のプラットフォームでは、事前に質問を作成することができるので、投票機能を使って、プレゼンテーション中に参加者に質問に回答してもらうことができます。

チャット機能は、チャット画面に質問やコメントを入力してもらうことで、参加者とより多く交流することができます。インタラクティブ (対話式) にやりとりを

しましょう。参加者の集中力はかなり短いものですが、オンライン上ではさらに集中力が短くなることを忘れないでください。

プレゼンテーションが45分より長くなる場合は、45分ごとに休憩を入れることをお勧めします。そんな時、タイマー機能が非常に役立ちます。

②Appendix「多用を避けたいフレーズ、古い言い回し」

“フィラーワード (filler words)” といわれる言葉を極力使用しない、あるいは少なくとも減らしましょう。フィラーワードとは、それ自体に意味がない言葉のことを言います。「um (あのー)」、「uh (ええと)」、「you know (わかる?)」、「like (みたいな)」といった言葉は、なくしたいところです。

その他にもフレーズや単語、修飾語、たとえば「sort of、kind of (みたいな感じ)」なども使わないでおきたい言葉です。これらの単語やフレーズは、プレゼンテーションではあまり強いインパクトを与えないからです。

もう一つよく耳にする一般的なフレーズに、「I think (私は思う)」があります。

例えば、「これは良い行動だと思います。」という言い方は、「これは良い行動方針です。」という言い方よりもはるかに弱い主張に聞こえます。つまり、「I think (私は思う)」は使わないようにします。

また、「Yeah, but (ええ、しかし)」や「Yes, but (はい、しかし)」と言うのも避けたいところです。これらの言い回しは、「Yes, and (はい、そして)」に置き換えましょう。そして、他のいくつかの古い表現や、何度も繰り返して使いすぎてしまうような表現は減らして、プレゼンテーションのインパクトを強めましょう。

動画でご紹介した多用を避けたいフレーズ、古い言い回し

1) 多用を避けたいフレーズ

①フィラーワード (filler words) に頼り過ぎない

話している最中に言葉が出てこなくなって、無意識に「えーと」「あー」と言ってしまうことがあるかと思います。これは、「フィラーワード (filler words)」と呼ばれる“つなぎ言葉”です。

発表時に多用してしまうと、話す内容の準備ができていないのかと思われたり、肝心の発表内容が聴衆の心に残らない可能性があります。Filler wordsの使い過ぎには注意しましょう。

●よく使われるfiller words

- well (えっと)
- um/uh (あのー／ええと)
- You know (わかるでしょ／ほら・・・よ)
- like (そのさ／なんていうか／みたいな)
- I mean (えーっと、つまり)

②あやふやな印象を与えてしまうフレーズ

言葉の区切り方があやふやだと、自分の意図していることと違う風に相手にとられかねない場合があります。その例をご紹介します。

●I think・・・

「I think.」と一旦区切って話を進めると、相手に「自分が思うこと」として伝わります。

ですが、英語本来の意味の「think」ではなく、聞いた事実を日本語で話すときに「○○と思います」と使うことはよくあります。これを、日本語の「思う」に引きずられて、「I think・・・」と言ってしまうと、その話が「自分の考え」なのか「事実」なのかが伝わりにくくなります。

例えば、天気予報で「明日は晴れです」と聞いた場合に、「I hear it will be fine tomorrow.」を、「I think it will be fine tomorrow.」という、「晴れという予報」なのか「晴れると思っている」なのかが、相手に伝わりにくくなります。

●Yes, but・・・

相手に自分の意見を伝えるときに、「Yes, but・・・」という相手かを否定しているように聞こえます。一旦「Yes.」で区切ったり、「Yes, and・・・」と言って、自分の意見を伝えると、相手も気持ちよく聞けるのではないのでしょうか。

③謙遜した表現は避ける

「I'm sorry I'm not good at English. (英語が苦手なので、すみません)」

プレゼンテーションの初めに、こうした謙遜した言葉を述べると、聞く人には言い訳としか捉えられかねません。

ネイティブスピーカーにしたら外国人の発表を聞く際には、自然と英語が得意ではないであろう人という前提で話を聞いていますので、堂々と、発音など気にせず挑みましょう。

④日本人が使いがちなフレーズ

日本語と英語の表現に違いがあるために、日本語を直訳した英語を使うことで意図が伝わりにくくなったり、誤解を招きかねないことがあります。

「～しなくちゃ」などでよく使いますが、外国人には「決めつけ、上から目線」的に強い言葉として聞こえます。

- must.....
- have to.....

以下の修飾語は、「インパクトが小さい」「取るに足りない」と思われることもありますので、言い切ることができる内容ならば、つけない方がよいでしょう。

- just
- almost, hardly
- only

2) 古い言い回し

①Ladies and gentleman・・・

よく教科書に、プレゼンテーションの初めの挨拶のところで載っていますが、非常にフォーマルな表現です。

以下のようなフレーズを使うのが自然でしょう。

- Good morning, everyone.
- Good afternoon, everyone.
- Hello everyone.

②Firstly,・・・

「まず初めに」として使う単語ですが、今では少し堅くて古い印象を与えるとのこと。最近では、以下のようなフレーズで始めることが多いです。

- First, there is.....
- First of all,

③shall・・・,

古くなくて堅苦しい、気取った印象や仰々しい印象があるので、あまり使われません。

④Let me・・・,

最近ではLet's ...といったカジュアルな感じの方がよく使われます。

今回は以上となります。